

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110413994		
法人名	医療法人 福和会		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番13号		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和2年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は施設の改修工事を行い現在は明るい施設内で入居者・職員も気持ちよく過ごされていると思っている。施設から見える中庭は季節の花に囲まれ特に造園業者の手入れが行き届きその都度入居者は側で見学を楽しんでいました
 毎年の夏のバスレクリエーションは家族参加が2回ありましたが一回目は7名もの参加があり満員のバスに9名の入居者と職員で楽しめましたが、小樽フェリーでは雷が原因の停電でフェリー埠頭の職員に背負ってもらったりもありました。二回目は手稲山紅葉狩りと昼の会食も喜んで頂けました。その他中庭での畑も芋、トマト、枝豆など収穫があり収穫祭で全員がおいしく楽しめたと思っています。
 立花病院の行事にも参加を積極的に行い、毎日散歩も体操と同時に体動かすことを入居者に勧めております。余暇活動はゲーム・塗り絵・脳トレなど入居者の好みに合わせて行っている。
 入居者が安心して暮らすことが出来、自分の思いが表現出来職員も励ましと声掛けを多くして能力にあった行動が出来るように、家族も安心出来る施設をめざしております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0110413994-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイム401
訪問調査日	令和元年12月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

手稲区に医療と介護の複合施設の一環として開設されたグループホームである。医療法人の経営で、広い敷地内に母体病院があり、事業所は4階建てケアハウスの1階に併設され、病院とは廊下で繋がっている。建物内部は今年全面改修し明るく清潔である。自然環境に恵まれ、中庭の花畑や遊歩道は利用者達の癒しとなっている。医療面が充実し、病院機能を十分に利用して健康管理できることから、利用者や家族の安心に繋がっている。職員は医療、介護の有資格者が多く、専門知識のもと、1人ひとりに寄り添い質の高いサービスを行っている。利用者は誕生会などの室内イベントを楽しみ、事業所企画のバスレクリエーションに参加して郊外へ出かけるなど、活気のある生活を送っている。運営推進会議は行政関係者や町内会、法人施設関係者など多数参加し、災害対策について、市の出前講座を受講するなど有意義な内容となっている。災害時には隣接する病院や施設との協力が約束されており心強い。地域とは町内会行事に参加する他、近隣幼稚園や小学校との交流があり、職員は利用者の心身の健康を守り、地域の中で穏やかに楽しく暮らせるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1		○理念の共有と実践 地域密着密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を継続、職員全員がその理念を共有して介護実践につなげている	運営理念・介護理念だけでなく昨年4月からは身体拘束防止の目標も掲げている。今年度は施設改修工事を行い見やすい場所に掲示、職員はネームに携帯して常にケアに生かしている。	運営理念、介護理念は室内の玄関、リビング、廊下に掲示し、職員ネーム裏にも記載し、全職員の共有を図っている。理念と共に身体拘束防止の目標も掲げ実践に繋げている。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、行事予定などは常に広報係さんから頂き入居者さんとの会話などでも報告。秋には、山口神社の子供神輿はとても笑顔になって賽銭を入れ子供達を応援しておりました	町内会に加入し、草取りなどの作業に参加している。近隣幼稚園や小学校との交流があり、山口神社の子供神輿は事業所玄関付近迄来ることで利用者に喜ばれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	春の草取りは入居者5名参加、途中で風が強く寒いと早めに施設に戻っても出かけたという感覚は残っていた。町内会の方も仲良く声をかけて頂き言葉は無くても表情は確実に笑顔になっていた。			
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議の中で、話題に取り上げられたのが昨年の地震で町内会の役員さんの苦労や防災について何度も話し合い入居者の家族も含めて意見と情報を伺いながら有意義に防災にも取り組んでいる	会議は定例に開催し、地域包括支援センター職員、町内会役員、家族、病院及び関連施設職員が参加している。運営、行事、災害などについて話し合い、討議内容はサービス向上に活かし、議事録は家族に送付している。市の出前講座で災害対策について研修した。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な札幌市、手稲区の管理者会議には全て参加して不明なことは電話やその時に質問で確認させて頂き、同じ施設内の朝風さんとも協力しております。	行政担当課職員とは、連絡業務や相談で日頃から連絡をとっている。市や区の管理者会議や研修会に出席し、行政の意向を把握しながら協力関係を築いている。		
6		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年4月に身体拘束廃止の指針を作成してそれを定期的に回覧しながら常に何が身体拘束のケアにつながるかを職員が身体拘束廃止委員会も含めて考えています。認知症の学習や研修に参加し全職員への報告もその都度行って言葉だけでなく散歩や体操などの時も言葉を大切にしている	身体拘束廃止の指針を作成し、「身体拘束廃止委員会」を3カ月毎開催し議事録に残している。議事録は全職員の閲覧確認をとっている。身体拘束について年2回以上の研修会を開催し、マニュアルを整備し身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加後職場にもどりそれをフィードバックすることで何が身体拘束になるかを考えて言葉遣いなどが施設での拘束になりやすいことを学び実践に結び付けている。その他鈴・入り口の鍵なども拘束の一部と考えて取り組んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居者の家族は全員が面会もあり施設の生活も家族に報告されている。研修は今年度は管理者研修に2名が参加をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の家族への説明は理解出来ていると思っている。その他介護保険の更新や、法律の変更などもその都度説明し、青空便りやお知らせで必ず知らせている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会、レクリエーションなどでは心配事や金銭的な悩みなど細部に会話の中から見つけて必要と感じた時は早めに対処を考えて家族に対応している	家族来訪時には話を聴き、要望や意見は「家族との交流記録」に記載している。「青空便り」を家族に送付し、事業所内での生活や行事の様子を伝えている。家族の要望は運営に反映させるよう取り組み、外部への相談機関を案内している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在も朝の申し送りを重要と考えミニカンファレンスを行い、ケアだけでなく、食事の料理方法や入浴介助方法のケアプランについての情報についても話し合い、職員の連絡ノートの活用も少ない職員の為重要となっている。	管理者は職員とカンファレンスや申し送り時に意見交換することができ、管理者と職員の面談も予定している。母体病院関係者に要望を伝える機会もあり、職員の意見や要望は運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は施設全体の改修工事が5月～8月に行われ、現在は展示物のレイアウトと設置。家具の購入の検討中、その他働き方改革に基づいて働きやすい環境に努め、今年度は体調不良や怪我の職員もでない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が高齢の為交代を検討、管理者研修に2名を派遣し現在引き継ぎを含め施設のよりよい運営に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内のGHとはお互いの協力は常にもって情報を共有している。経理・入居の受け入れやその他食事の管理も栄養士加入と立花病院との協力ある。運営に関しては事務長・理事長などの協力によって行われている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心身の状態と認知症状・家族との状態を丁寧に傾聴をすることから話しやすい雰囲気を作っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の受付はケアハウススカイラクの担当者が窓口となって全GHの入居者候補を決め施設見学もされている。担当者から相談があれば家族にも不安や質問に答えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム入居後は慣れるまで帰宅願望が強いが職員は施設での生活に慣れるように声掛けを多く、家族とも訪問時や電話で状態を報告し不安の軽減に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は職員と同じ目線で会話をしながら施設内での必要な雑巾縫いやごみ箱作り・洗濯物の片付けの協力をして頂いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後から家族も職員も入居者も安心して暮らせるための協力を行い、施設の行事参加説明や家族が面会時は居室にテーブルやお茶を用意してドアを閉めてゆっくりと会話ができるようにさせて頂いている		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会やスカイラクの入居者とも挨拶や日常会話を楽しくしていただけるように毎日の散歩の時も常に声掛けをさせていただいている	家族や友人の来訪時には居室などでゆっくり寛げるように配慮している。墓参りや帰郷などについても支援し、馴染みの関係が継続されるよう支援している。併設ケアハウスの方達とも親しくしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今年は10数年ぶりに改修工事を行いそれに伴い食卓・ソファのレイアウトも検討中テレビや音楽鑑賞だけでなくゲームや余暇活動も積極的に行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連携病院と常に関わりを持ち体調管理だけでなく病院の施設も利用して散歩・カラオケ・その他行事でも行き来ができています。退去した入居者とも会話や日常挨拶などで声掛けも多い		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、入居者を本位に検討している	入居者全員に認知症による症状が多様となっており、声かけを多くし、表情の観察と家族の意向を確認。職員は気付きを共有しながらケアに繋げている	日頃の会話や表情から希望や意向の把握を行っている。ライフヒストリーを参考にし、家族との交流記録からも情報を得て、全職員で共有し、本人の意向に沿えるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のライフヒストリー・アセスメントシートの作成、日常の会話からも常に確認しております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の行動や会話から、出来ることと出来ないことを選択してカンファレンスを行い入浴や食事中の行動からも出来る所は自分で出来るような支援をケアプランに活用している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のカンファレンスから職員・家族・その他の関わっている人たちの意見や情報を基に介護計画を作成し実行している	介護計画は利用者、家族の意向を考慮し、医師の助言も取り入れ、3～6カ月ごとにモニタリングを行い作成している。状況変化時はその都度モニタリングを行い、現状に即して作成している。介護日誌に計画目標を記載し、目標達成を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙を変更は平成30年8月に行い現在もこの用紙を使用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	頻りに家族とは連絡を取り、スタッフとはケアプランに沿った内容で生活リズムを整えながら安心して生活が出来るようにその日の状況を把握しながらサービス提供に心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入しており、行事予定など常に広報係さんから頂き入居者さんとの会話などで報告。秋には、山口神社の子供神輿はとても笑顔になって賽銭を入れ子供達に応援しております		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	8人が立花病院で定期的に受診・薬処方、1人は入居前からの病院で薬処方されている	母体病院の医師の往診が月1回あるが、必要時いつでも相談し受診できる。本人の希望する医療機関や他科受診については家族と共に通院支援をしている。24時間体制で医療機関と連携しており、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のカンファレンスから職員・家族・その他気付いた時に報告を密にして受診を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は医療母体の立花病院に受診し必要な医療的処置が出来るようにすぐに情報を病棟に届けている		
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と入院処置やどうすることが本人と家族に必要なかを話し合いをしている	入居時に、重度化した場合や終末期の対応について話し合い、本人、家族の意向を文書により確認している。状況変化時は、医師、家族、職員と情報、方針を共有し、事業所のでき得る範囲で最善を尽くし、家族の意向を尊重し、母体病院への入院対応となっている。	「重度化や終末期の看取りについての指針」について現状に適合した内容となるよう考慮しているため、その取組みと、整備後は新たに家族に説明し同意を得る事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	処置はバイタル測定・感染の有無の確認をして立花病院外来受診と家族への報告をしている。		
35		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年の地震後の停電・水道の停止は防災グッズと職員の応援でなんとか乗り越えている。現在は最低の3日分の食品の備蓄を含め防災グッズを用意している。	避難訓練は消防署立会のもと、昼・夜想定火災訓練と水害訓練合わせて、年3回実施している。関連施設とも協力している。災害時は隣接病院との協力が約束されているが、食品、水、薬など最小限は用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36		○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経歴や生活状況を考慮してその人らしく意志を尊重し、解り易く優しい言葉遣いと丁寧な介護支援を行い、個人情報の守秘に心がけている。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや動作に配慮している。個人情報記載書類や写真の取り扱いにも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難しいかもしれませんが出来る範囲で本人が穏やかに過ごすことが出来るように声掛けもしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食時間・散歩や余暇活動に対して本人に声かけながら希望に添いながら本人の希望に沿って過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族とも常に連絡を取りながら季節ごとに添った服装に気を付けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人一人歯の状態・嚥下状態が違う為常食だけでなく全体に軟菜にしている	メニューは施設の栄養士が利用者の好みを考慮して作成している。菜園で収穫した野菜を利用することもあり、利用者はテーブル拭きなどを手伝い、職員と同席して和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日6回のお茶の提供・飲水量のチェック、食事中の観察で喉の詰まり感の観察を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後義歯の洗浄・夕食後のポリドント洗浄、口腔液体洗浄材の介助をしている		
43		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パット使用は職員が手伝うことも多いが時間なども考えてトイレ誘導も多い、現在は全員がトイレでの排泄ができています	排泄記録や表情を参考に、適時にトイレに誘導している。パットなど衛生用品も個人に合わせて利用し、見守り支援を行っているが、全員がトイレでの排泄が可能である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の介護確認票とトイレ誘導時の確認で便秘・下痢を早く把握して早めに外来受診して必要な薬剤の処方を受けている		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ケアプランに沿ってその入居者に適した入浴を行っている	入浴は原則週2回実施しているが、体調、タイミングなど本人の希望に沿って支援している。職員介助のもと、ゆっくり話ながら入浴している。体調によりシャワー浴や清拭も利用しており、浴室の安全と衛生管理に注意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望からベッドに入る時間は決まっていないが、パジャマを着る時間と入浴前の飲水を含めて眠剤使用者の介助もおこなっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要な薬は立花病院で8名が処方され、家族の希望で1名は他の病院で処方されており、内服は食前・食後・寝る前とありカップに入れたりして内服確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の立花病院の多目的ホールまでの散歩は距離もあり適度な運動にもなっている。塗り絵・お手玉・ゲームで生き生きとされている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏は3回のバスレクリエーションは全員参加している。その内の2回は家族参加7名で協力もされている町内会参加の草取りも2回あり参加者は3名でした	玄関前の遊歩道散歩や中庭の菜園の手入れで戸外に出る機会には恵まれている。バスレクリエーションでは花見や小樽埠頭に出かけている。レストランで食事を楽しむこともあり、生活の活性化を図っている。家族参加もあり、協力して外出支援ができるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いでお小遣いを施設で預かり特に紙パンツ・パット・髪カットで使用させて頂き毎月家族に報告をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な時は家族と電話で会話をされている		
52		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	CDやテレビの音はあるが外部からの音は無く夏は冷房・冬は暖房・全室ロスナイ完備されている。日中は外の明かりでテレビが見えない時もあるがその都度カーテンで調節している	今年、事業所内部の全面改修工事を行い新築同様である。リビングは明るく、利用者の作品が飾られ、家庭的な雰囲気である。冷暖房完備し全室ロスナイ設置で空気調節を行い、環境整備され、居心地が良い。病院のリハビリ室へは1階廊下で繋がっており、利用することができ恵まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は食事の場所・団樂のソファ場所工作や会話の場所2か所で自由に過ごされている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は毎日掃除専門の職員が掃除機をかけて丁寧に掃除されている。作品の掲示や家族からの写真などを自由にかざっている	居室には馴染みの家具を置き、家族の写真や趣味の作品など自由に飾っている。専門の清掃職員が丁寧に掃除しており清潔である。家族とも相談し居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今年は全体をリホームして現在は明るい施設で気持ちよく生活出来ていると思われ、トイレなどもわかりやすく必要なドアの飾りなどしている		